

1 第3回部落解放研究者会議を終えて

去る二月一四〜一五日、奈良あやめ池桃山荘に於て、社団法人部落解放研究所主催の第三回部落解放研究者会議が行なわれた。当日の参加者は八二名で、住田利雄理事の開会挨拶の後、原田伴彦理事より主催者代表の挨拶があった。ついで、林広司・大阪府同和教育企画室長、吉原賢太郎・大阪市同和对策部長から来賓挨拶を受けた。

ついで、記念講演として「国際障害者年」を統一テーマに、錢本三千年・点字毎日新聞編集長、楠敏雄・全国障害者解放運動連絡会議事務局長、平沢徹・部落解放同盟大阪府連生活対策部長よりそれぞれ問題提起がなされた。

夜は、人権・啓発、行政・経済、教育・文化、歴史・理論の四部門に分かれ、八〇年度の活動報告と八一年度研究活動について論議がなされた。

第三回部落解放研究者会議を終えて

(二月一四〜一五日)

部落解放研究所研究部事務局

第二日目は部門別会議の報告を各事務局より行なった。それに対して、若干の質疑応答を行ない、まとめとして、大賀正行・部落解放研究所研究部長が①三大闘争にかかわるテーマの研究、②部落史と部落解放理論にかかわるテーマの研究、③解放教育にかかわるテーマの研究の三つの課題を提起し、「八〇年代を迎え、きびしい内外の情勢と政府・独占の急速な反動化、軍事大国化がすすんでいるが、こうした時代こそ運動に確固たる理論的基礎を与え、反撃の方向をさし示す研究活動が必要とされる時である」とし、現在、重要な局面にある「特別措置法」強化・改正の闘いの状況が非常に厳しいこと、国民的世論をまきこんだ大きな渦の闘いとしていくために、研究員各位の一層の協力を訴え、まとめとし、研究者会議を終えた。